

令和5年度事業計画 及び一般会計歳入歳出予算



茨城県支部

1. 令和5年度事業計画

大規模化・頻発化する自然災害や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応など、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命をかかげる 日本赤十字社の役割は、より一層、重要となっている。

一方、日本赤十字社の活動を支える活動資金の収入状況は、引き続き厳しい状況にあり、今後も、赤十字の活動を維持していくためには、より多くの県民の皆さまからのご理解とご協力を賜り、活動資金確保に努める必要がある。

このことから、令和5年度は以下（1）～（3）を重点として事業を進めていくこととする。

なお、各事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を慎重に判断しながら、オンラインの積極活用などにより、柔軟に対応していくこととする。

- （1）災害救護活動の充実強化
- （2）関係機関と連携した講習・セミナーの充実
- （3）会員の増強と活動資金の確保
- （4）救急法等の講習
- （5）赤十字奉仕団
- （6）青少年赤十字
- （7）国際活動
- （8）看護師の養成
- （9）デジタル化による業務効率化

(1) 災害救護活動の充実強化

災害時において、適切な救護活動を行えるよう支部及び他支部との合同で訓練を実施するとともに、首都直下地震など大規模災害に備え、災害対応能力の強化と救護活動に必要な資機材等の充実を図る。

①訓練：茨城県支部

- ・常備救護班員等災害救護訓練（6月、2月）
- ・地区分区と連携した災害対策本部運営訓練（年2回（新））

②訓練：第2ブロック支部

- ・第2ブロック支部総合訓練（10月）
- ・第2ブロック支部先遣要員訓練（2月）
- ・被災地支部災害対策本部運営・支援訓練（2月）

③訓練：他機関との連携（新）

- ・茨城県警察及び茨城県建設業協会との合同訓練（年1回）

④整備する主な医療資機材

- ・可搬型心電計（新）
- ・腹部用診断エコー（新）



可搬型心電計

(2) 関係機関と連携した講習・セミナーの充実

少子高齢化や災害の多発化等の課題に対し、他機関と連携を図り地域ニーズに合わせて講習・セミナーを提供し、住民の「自助」・「互助」の意識を醸成。

①地域包括ケア事業（新）

高齢者等への支援を目的に笠間市社会福祉協議会と連携し
モデル事業を実施

- ・高齢者サロン利用者や運営者等へ健康生活支援講習
- ・子育て者やその支援者等へ幼児安全法

モデル事業を踏まえて他市町村へも事業拡大

②赤十字防災セミナー（新）

地域の自助・互助の力を高めることによって災害から
いのちを守ることを目的に明治安田生命と連携し住民向け
講座として「赤十字防災セミナー」を実施

③防災キャンプの実施（新）

親子がキャンプをとおして災害時における知識や技術を
身に付け、防災意識を高めるイベントを茨城新聞と連携
して実施



幼児安全法



防災セミナー



防災キャンプ

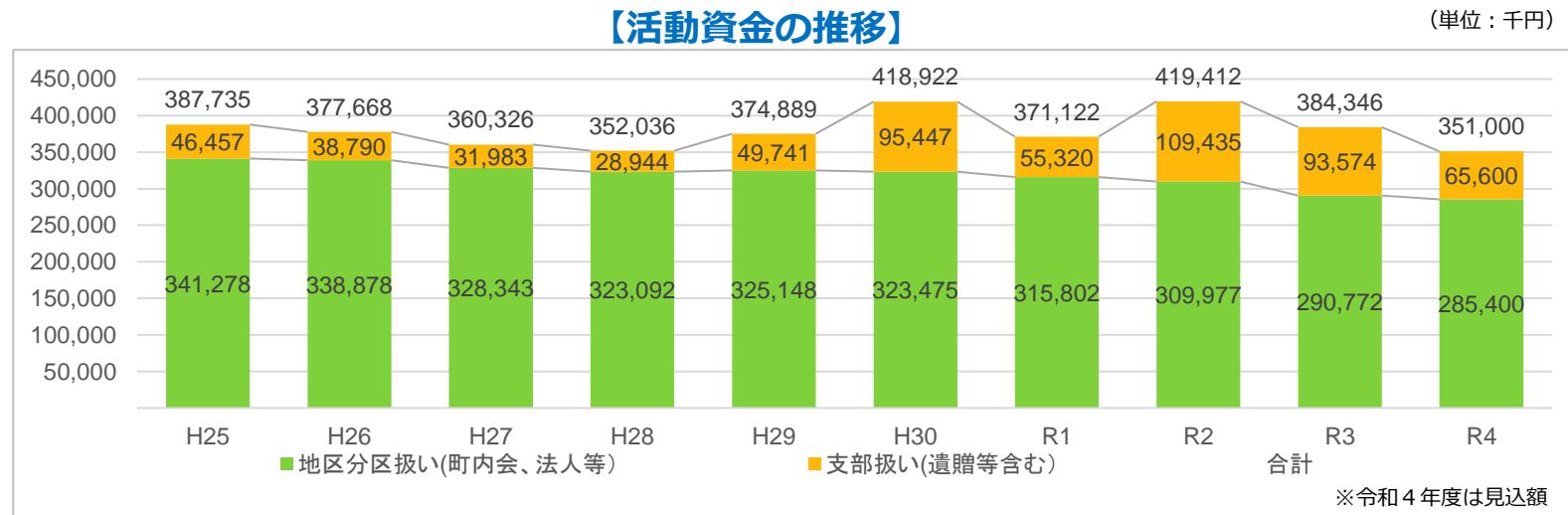
(3) 会員の増強と活動資金の確保

①会員増強に向けた広報活動の充実

会員や県民の皆さん方に、活動の取り組みや成果等を分かりやすく伝え、共感していただけけるよう、様々な媒体を通して広報活動を展開し、支援の拡充を図る。

②災害からいのちを守る赤十字活動の財源確保

- 大規模化・頻発化の傾向にある災害に対応するため、令和5年度は活動資金目標額を**3億7,500万円**（前年度と同額）とする。



現況と
課題

- 活動資金の基盤となる「町内会(世帯)からの活動資金」は、総人口の減少や町内会への未加入世帯の増加等に起因し、下げ止まりに歯止めがかかる。
- 町内会経由の活動資金募集は重視しつつも、減少額を補完するため、多様な募集方法に取り組む必要がある。

(3) 会員の増強と活動資金の確保

- 令和5年度の目標額を確保するため、以下の5つを柱とし積極的に施策に取り組む。

取り組みの柱	主な施策
地区分区との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地区分区の協力を得て、町内会等を通じて広報紙を配布し、赤十字活動への理解促進や活動資金への協力を呼びかけ 募集実績が低迷している地区を重点的に支援
既存会員の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙等による事業成果報告及び礼状による謝意を伝え、継続支援を依頼 災害発生時は災害速報により救護活動情報を発信し、活動資金協力を呼びかけ
新規会員の獲得	<ul style="list-style-type: none"> 義援金寄付者等へダイレクトメールによる活動資金協力を依頼 個人の祝事記念や法人・団体の周年記念で活動資金協力を依頼 クレジットカードやスマートアプリなど非接触型による寄付協力方法の周知
法人寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> 業界団体を通じて、団体会員へ活動資金協力を依頼 地元企業を訪問し活動資金協力を依頼
遺贈等寄付の受付推進	<ul style="list-style-type: none"> 遺贈、相続財産寄付セミナーを通じて、赤十字への寄付を呼びかけ 地元地方金融機関との連携や広報媒体等による遺贈、相続財産寄付の推進

(4) 救急法等の講習

①オンライン講習の拡充

- ・社会の変化や多様なニーズに対応するため、収集型講習に加えオンライン講習を実施し、講習普及の拡充を図る。
- ・受講者を教職員や保育者、子育て支援者などに特定し、属性に応じた内容でオンライン講習を開催する。

《講習開催計画 実施：327回 受講者：10,980人》



オンライン講習を指導するボランティア



親子向けオンライン講習を受講する小学生

②子供たちへ「人道や命の尊さ」を考える機会を提供

- ・小学生を対象に夏休みの自由研究の一助となるよう、SDGsと赤十字活動との関連や防災・救急法など「人道や命の尊さ」について考えるオンライン講習会等を開催。

(5) 赤十字奉仕団

①奉仕団の結成促進と団員の確保

- ・地域奉仕団未結成地区の市（地区）と連携して、奉仕団の結成に取り組む。
- ・青年奉仕団員確保に向け、青少年赤十字高校生メンバーとの交流会開催や、SNSにて奉仕団活動の情報発信を積極的に取り組み、加入促進を図る。

②奉仕団活動の活性化

- ・基礎研修会、リーダー研修会等を開催する。
- ・奉仕団活動における課題等を地域赤十字奉仕団活動活性化委員会において協議する。

③地域防災力向上のための防災・減災への取組み

- ・防災ボランティアリーダーや賛助奉仕団員と連携し、地域住民や児童・生徒を対象に防災・減災の知識や技術を普及する。

《地域奉仕団》

30 市	6,212人
12 町村	596人
合 計	6,808人

《特別奉仕団》 (令和4年12月31日現在)

特殊奉仕団	8 団	776人
青年奉仕団	3 団	76人
合 計		852人



基礎研修会



青少年赤十字高校生メンバーと
青年奉仕団員の交流会

(6) 青少年赤十字

①青少年赤十字活動の充実と加盟促進

- ・リーダーシップ・トレーニング・センター(2泊3日)を中学生、高校生合同で実施する。
- ・活動の更なる充実と活性化を図るため、加盟校を対象に活動費の助成を行う。



※リーダーシップ・トレーニング・センター

②防災教育の促進

- ・日赤防災教材「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん」、「まもるいのちひろめるぼうさい」を活用し、児童・生徒への防災教育普及に努める。



③国際交流事業の推進

- ・青少年赤十字メンバーを対象とした国際交流イベントを開催し、海外の文化の考え方への理解を深める。

《加盟校数及びメンバー数》

(令和4年12月31日現在)

※海外の方と交流する高校生メンバー

幼・保	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	合計	メンバー総数
8	163	96	3	73	4	3	350	66,620

(7) 国際活動

①国際開発協力事業の推進

- ・ バングラデシュ赤新月社が主体となって行う、避難民への保健医療支援事業やインドネシア赤十字社が主体となって行うコミュニティ防災強化事業に資金援助を行う。

②海外たすけあい募金キャンペーンの実施

- ・ 紛争や災害、病気で苦しんでいる世界各地の人々を支援する募金キャンペーンを実施する。



※難民自らがボランティアとして、キャンプに住む人々へ、感染症予防を普及



※日赤看護大学での実習

(8) 看護師の養成

日赤看護大学生に対する奨学金貸与

- ・ 日赤看護大学に在籍し、卒業後は茨城県内の赤十字病院への就職を目指す学生を支援するため、引き続き8名の学生に対し奨学金を貸与する。

(9) デジタル化による業務効率化

管内施設一丸となつたデジタル化への取組

- ・ 支部・管内施設によるデジタル推進検討会を引き続き開催し、有識者の知見も活用しながら、ICTの導入による業務の効率化及びサービスの向上を図る。

2. 令和5年度歳入歳出予算

(1) 岁入予算

(単位:千円)

科 目	R5予算	R4予算	増 減	備考
社資収入	375,000	375,000	0	・一般社資（個人受付分） (320,000) ・法人社資（法人受付分） (55,000)
補助金及び交付金収入	2,176	2,351	△175	・本社主催会議への出席に係る旅費助成金 (493) ・本社から支部に対する補助金 (1,683)
繰入金収入	1,000	1,000	0	・国際活動のための特別会計からの繰入金 バングラデシュ保健医療支援事業 (500) インドネシアコミュニティ防災支援事業 (500)
資産収入	2	2	0	・地代収入（電柱1本）
雑収入	4,963	6,032	△1,069	・講習会等負担金収入 (4,673) ・その他雑収入 (290)
前年度繰越金	※1 72,194	87,175	△14,981	
合 計	455,335	471,560	△16,225	

(※1) 令和4年度決算見込

463,078千円(歳入) - 390,884千円(歳出) = 72,194千円 (令和5年度への繰越金)

(2) 歳出予算

(単位:千円)

科 目	R5予算	R4予算	増 減	備 考
災害救護事業費	56,097	56,487	△390	・災害救護訓練等経費 (4,766) ・救護資機材購入費 (22,109) 避難所巡回用腹部エコー、AED、布団セット、無線点検など
社会活動費	61,574	72,376	△10,802	・救急法等講習経費 (30,248) ・JRC創設100周年記念事業 (8,089→0)
国際活動費	1,051	1,051	0	・バングラデシュ保健医療支援事業 (500) ・インドネシアコミュニティ防災支援事業 (500)
指定事業地方振興費	8,650	8,800	△150	・市町村への救護装備配備事業等 (8,650) 災害救援車、倉庫、テントなど
地区分区交付金	58,400	61,000	△2,600	
社業振興費	59,819	59,202	617	・社資募集関係資材作成費 (5,354) ・広報誌発行、ラジオCM (19,090)
基盤整備交付金 ・補助金	400	300	100	・日本赤十字看護大学への補助金
積 立 金	49,305	59,701	△10,396	・災害等資金積立金 (25,000) ・施設整備準備資金積立金 (15,000)
総務管理費	75,793	76,107	△314	・人件費、社会保険料、職員健康管理費など
資産取得及び 資産管理費	27,268	19,626	7,642	・庁舎メンテナンス費 (21,000) 外壁修繕、屋根塗膜防水、駐車場区画線工など
本社送納金	53,978	53,910	68	
予 備 費	3,000	3,000	0	
合 計	455,335	471,560	△16,225	

令和5年度事業計画 及び医療特別会計歳入歳出予算



100
Anniversary
since
1923
2023

100年に感謝 ～これからも地域とともに～

水戸赤十字病院

1. 令和5年度事業計画

(1) 病院の特徴

①病床数 許可病床：442床 実働病床：338床

②診療科 24診療科

③特 徴

- ・基幹災害拠点病院
- ・第二次救急医療施設
- ・茨城県がん診療指定病院
- ・Iイズ診療拠点病院
- ・基幹型臨床研修病院
- ・緩和ケア病棟
- ・人間ドック施設 等
- ・地域医療支援病院
- ・地域周産期母子医療センター
- ・地域リハビリテーション広域支援センター
- ・第二種感染症指定医療機関
- ・病院機能評価認定施設
- ・地域包括ケア病棟

④職員数 664人(常勤換算数)

医師：80人 看護師：345人 医療技術者：94人 その他： 145人

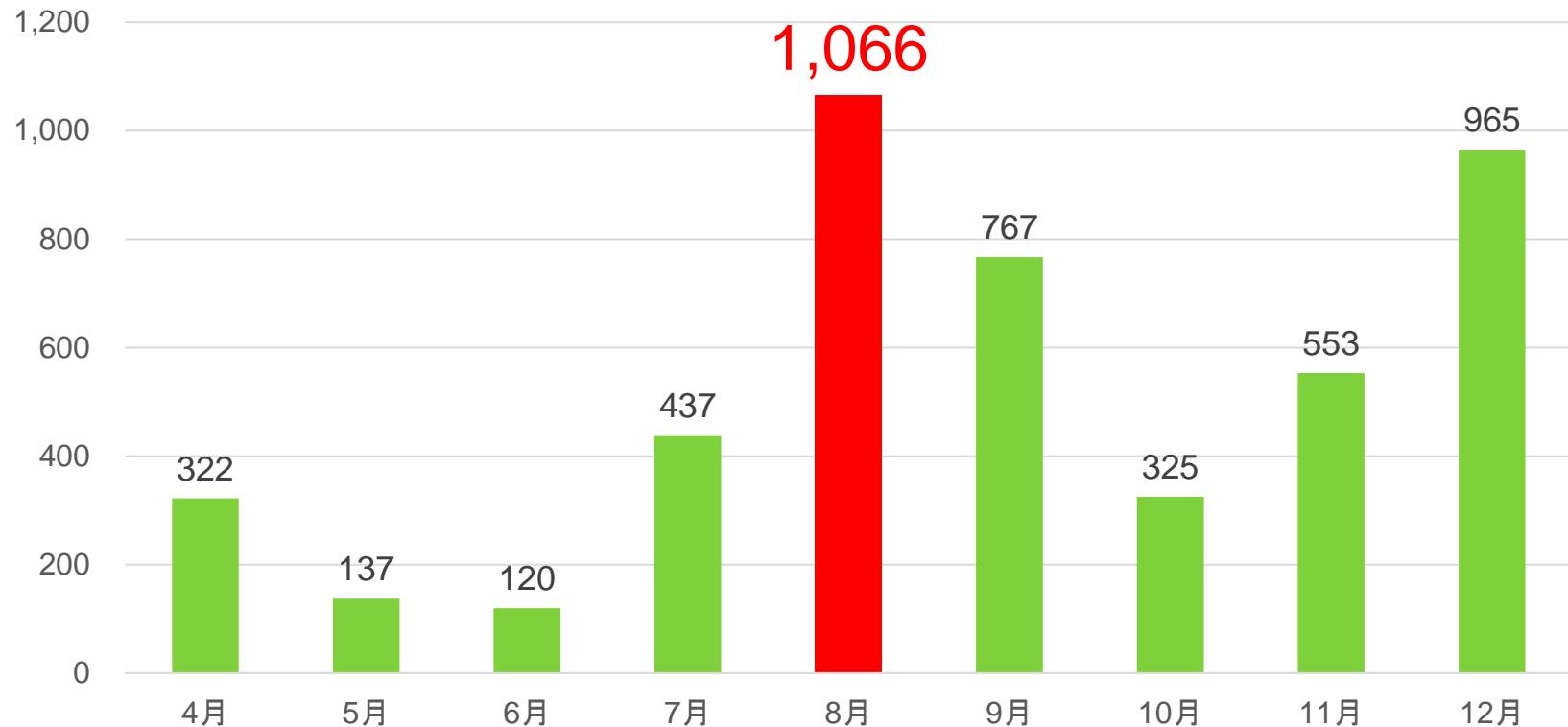
(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

・入院患者受入

重点医療機関として最大85床の即応病床を整備、多くの陽性患者を受け入れて いる。今後も新型コロナウイルス感染症の動向に注視しながら、適切に対応を していく。

〔令和4年度 入院状況〕

単位：人



(3) 重要施策

① 地域医療構想への対応

② DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

③ 災害医療の充実

④ 創立100周年記念事業

(3) 重要施策

① 地域医療構想への対応

- 今後の医療介護需要の増大と疾病構造の変化に対応するため、2025年における必要病床数が茨城県から示されていることから、当院においても茨城県や水戸市、日本赤十字社との連携体制を強化しながら、水戸保健医療圏のニーズにあった医療提供体制の検討を加速する。

※令和5年度予算には、病院将来構想特別枠を設け、新病棟の基本構想策定にも着手する。

② DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 新型コロナウイルスへの対応の過程で明らかとなった医療分野におけるDXの遅れに対し、新しい生活様式のもと、デジタル技術活用の流れが加速する社会構造の変化を前向きに捉え、デジタル化を推進しつつ生産性の向上を目指す。

※令和5年度予算では、1億円の特別枠を設けDXを推進する。院内に数多く残る紙文書決裁について、システム化、デジタル化するとともに、2023年3月末のPHSサービス終了を見据え、職員への新たな端末配布を検討する。

(3) 重要施策

③災害医療の充実

- ・これまで実現できなかった地域医療機関等との定期的な災害訓練を実施する。
- ・通常時の6割程度は発電量がある非常電源用タンクを増設し、有事の際に3日程度の備蓄燃料を確保するとともに、衛星回線インターネットが利用できる環境を整備し、基幹災害拠点病院としての機能を充実させる。

※医療提供体制施設整備交付金など、補助金を有効に活用していく。

④創立100周年記念事業

- ・令和5年6月14日に創立100周年を迎えることから、記念事業においては、地域と連携して歩んできた100年を振り返り、関係する皆さまへこれまでの感謝、当院の理念や展望を伝える。

＜100周年事業 記念式典／記念講演／祝賀会＞

- 日付：令和5年6月10日（土） ●場所：水戸プラザホテル
- 参考範囲：本社社長等、県支部長、日赤東部ブロック20病院の院長、事務部長及び看護部長等
- 来賓：茨城県知事、水戸市長、県及び各市郡医師会長及び連携病院長等

※計400名程度の参加を想定

(4) 重要指標

※コロナ病床30床を前提

① 1日平均患者数

外来患者	
------	--

単位：人	
R5年度計画	770
R4年度計画	760
R4年度決算見込	748

入院患者	
------	--

単位：人	
R5年度計画	220
R4年度計画	230
R4年度決算見込	195

② 1人1日当たり患者収益

外来患者	
------	--

単位：円	
R5年度計画	20,200
R4年度計画	20,200
R4年度決算見込	19,500

入院患者	
------	--

単位：円	
R5年度計画	65,900
R4年度計画	62,900
R4年度決算見込	65,252

2. 令和5年度歳入歳出予算

・収益的収入及び支出

①病院収益

単位：千円

	入院診療収益	外来診療収益	その他の 医業収益	医業外収益等	合計
R5年度予算（案）	5,306,268	3,764,068	324,365	319,838	9,714,539
R4年度予算	5,280,455	3,730,536	327,562	318,586	9,657,139
R4年度決算見込※	4,638,715	3,542,685	328,036	1,861,694	10,371,130

※令和4年度の決算収入については、新型コロナウイルス対策費用として、国から約15億円の補助金が交付される見込みであることから、予算額を上回る見込み。

- 収益的収入及び支出

②病院費用

単位：千円

	材料費	給与費	その他の 医業費用	医業外費用等	合計
R5年度予算（案）	2,522,498	5,141,873	1,850,729	196,326	9,711,426
R4年度予算	2,518,914	5,164,395	1,773,197	197,246	9,653,752
R4年度決算見込	2,650,467	5,260,533	1,741,357	207,705	9,860,062

・収益的収入及び支出

③収支差引

単位：千円

	収 入	支 出	差 引
R5年度予算（案）	9,714,539	9,711,426	3,113
R4年度予算	9,657,139	9,653,752	3,387
R4年度決算見込※	10,371,130	9,860,062	511,068

※令和4年度の決算収入については、新型コロナウイルス対策費用として、国から約15億円の補助金が交付される見込みであることから、予算額を上回る見込み。

令和5年度事業計画 及び医療特別会計歳入歳出予算



古河赤十字病院

1. 令和5年度事業計画

(1) 病院の特徴

- ①病床数 許可病床：200床 実働病床：200床
- ②診療科 26診療科
- ③特 徵
- ・地域災害拠点病院
 - ・第二次救急医療施設
 - ・第二種感染症指定医療機関
 - ・病院機能評価認定施設
 - ・地域包括ケア病棟（50床）
 - ・救急救命士実習病院
 - ・地域医療支援病院
 - ・病院群輪番制病院
 - ・小児救急二次輪番病院
 - ・在宅医療参入促進連絡医療機関
 - ・自治医科大学地域臨床教育センター
 - ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関 他
- ④職員数 327人(常勤数)
- 医 師： 27人 看護師：170人
- 医療技術者：58人 その他： 72人

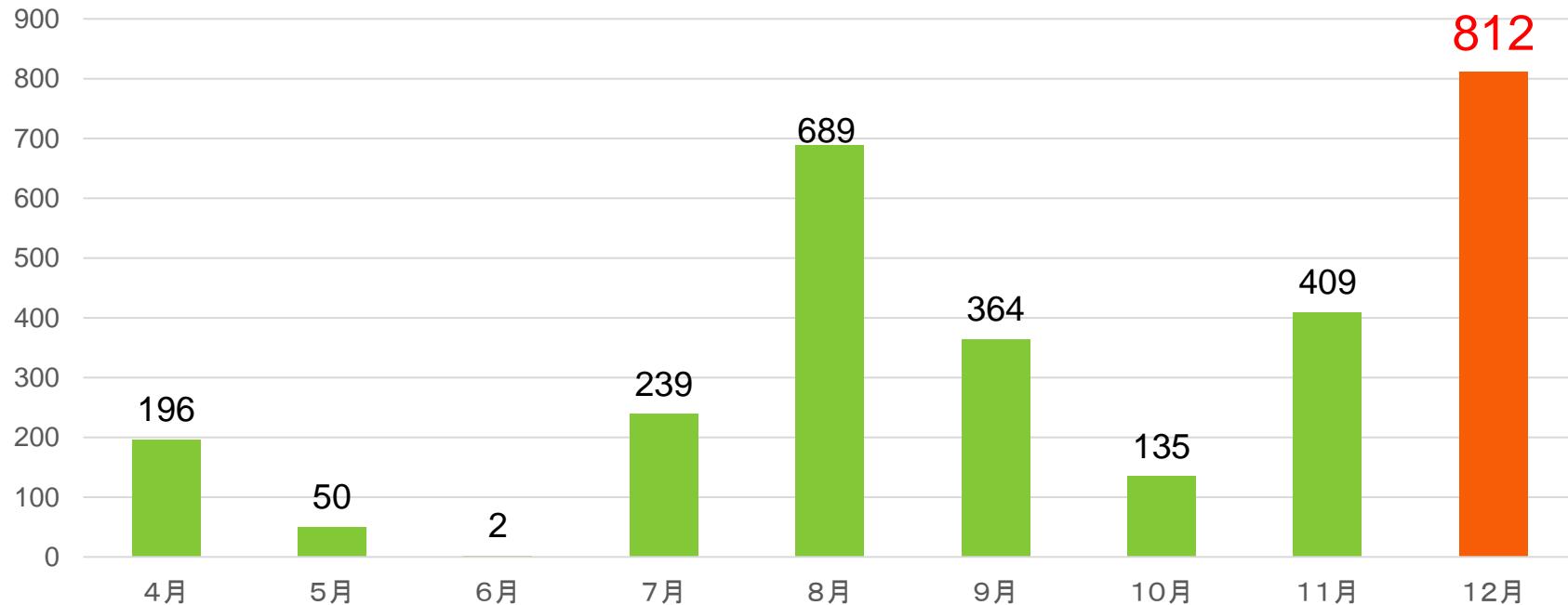
(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

・ 入院患者受入

新型コロナウイルス感染症患者対応のため、重点医療機関として最大50床の専用病床を整備、多くの陽性患者を受け入れた。

〔令和4年度 入院状況<補助金申請人数に基づく>〕

単位：人



(3) 重要施策

①ウイズコロナにおける感染症対策と経営の両立

②救急受け入れの改善

③地域連携の充実

④病院機能評価の更新

⑤医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

⑥創立70周年記念事業

(3) 重要施策

① ウイズコロナにおける感染症対策と経営の両立

- ・第2種感染症指定医療機関として、感染症予防に対する高い意識をもって感染症対策を継続するとともに、医業収益の回復を図る。

② 救急受け入れの改善

- ・「救急依頼を断らない非常勤日当直医」の雇用により、救急外来での救急車の受入台数が改善してきたことから、現在より勤務日数を増やすことで、緊急入院患者の増加を図る。

③ 地域連携の充実

- ・当院が、古河坂東地区の感染症対策の中心的役割を担っていることから、この繋がりを足掛かりにして、定期的に開催する講演会や勉強会を通じて、更なる連携の充実を図り、当院への紹介患者数の増加につなげる。

④病院機能評価認定の更新

- ・ 2023（令和5）年10月に認定期間の満了を迎えることから、認定更新のための受審に向け、コンサルティング会社の支援を受けて準備を行う。
(再受審 令和5年11月予定)

⑤医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・電子カルテシステムについては、2018（平成30）年の導入から5年が経過することから、2025（令和7）年に更新を予定している。
更新に向けてプロジェクトチームを立ち上げるとともに、外部コンサルティングを活用してベンダーや機種の選定を行うとともに、今話題となっているランサムウェア対策等へのセキュリティ対策を進めることとしている。

⑥創立70周年記念事業

- ・当院は2023（令和5）年11月に、創立70周年を迎えることから、記念式典の開催や記念誌の発行を行う。
また、記念事業として利便性や安全性の向上を目指し、患者用駐車場の改修工事を計画している。

(4) 重要指標

※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

① 1日平均患者数

外来患者

単位：人

R5年度計画	410
R4年度計画	440
R4年度決算見込	400

入院患者

単位：人

R5年度計画	146
R4年度計画	154
R4年度決算見込	120

② 1人1日当たり患者収益

外来患者

単位：円

R5年度計画	13,700
R4年度計画	12,600
R4年度決算見込	13,339

入院患者

単位：円

R5年度計画	54,000
R4年度計画	49,700
R4年度決算見込	53,080

2. 令和5年度歳入歳出予算

- ・収益的収入及び支出 ※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

①病院収益

単位：千円

	入院診療収益	外来診療収益	その他の 医業収益	医業外収益等	合計
R 5年度予算（案）	2,885,544	1,494,122	332,938	87,870	4,800,474
R 4年度予算	2,793,637	1,474,704	349,920	103,780	4,722,041
R4年度決算見込 ※	2,323,736	1,419,229	315,760	1,114,234	5,172,959

※令和4年度の決算収入については、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等補助金収益として10億円が国から交付される見込みであることから、予算額を上回ると見込まれる。

・収益的収入及び支出

※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

②病院費用

単位：千円

	材料費	給与費	その他の 医業費用	医業外費用等	合計
R5年度予算(案)	866,600	2,747,639	1,096,633	89,034	4,799,906
R4年度予算	845,231	2,674,757	1,097,995	103,663	4,721,646
R4年度決算見込	854,623	2,694,475	1,062,300	94,142	4,705,540

・収益的収入及び支出 ※本社指示によりコロナ感染症の影響は見込まない

③収支差引

単位：千円

	収 入	支 出	差 引
R5年度予算（案）	4,800,474	4,799,906	568
R4年度予算	4,722,041	4,721,646	395
R4年度決算見込※	5,172,959	4,705,540	467,419

※令和4年度の決算収入については、新型コロナウイルス感染症病床確保事業補助金等補助金収益として10億円が国から交付される見込みであることから、予算額を上回ると見込まれる。

令和5年度事業計画 及び社会福祉施設特別会計歳入 歳出予算



支部乳児院

1. 令和5年度事業計画

(1) 乳児院の概要

①児童福祉法に基づき認可・設立

- ・家庭の様々な事情のため養育困難な乳幼児を、県内の児童相談所より措置、一時保護として預かり昼夜にわたり必要な期間養育を行う。

②入所児定員 38人

③職員数 48人

医 師：1人 嘔託医：1人

看護師・保育士：33人

栄養士：2人 その他：11人

(2) 重要施策

①広く地域に開かれた子育て支援事業

- ・乳児院の持つ専門性を活かし、子育て家庭に役立つ情報を提供し、地域の子どもたちの健やかな成長の支援を行う。
- ・里親支援の推進を図る。

②地域社会に不可欠な施設としての存在意義

- ・子育て短期支援事業（ショートステイ）
- ・保育実習生の受入（保育・看護）

③施設が有している資源の活用

- ・近隣の医療施設と連携し、病虚弱児の受入れを行う。
- ・県内乳児院や一般を対象に、小児科医による講演や幼児安全法講習を実施する。
- ・県児童福祉施設協議会主催の行事開催時、救護のため看護師を派遣する。

④職員の質の向上と人材育成

- ・各種研修会への参加やeラーニングを活用し、職員の質の向上と育成に取り組む。
- ・他施設との短期実地研修を実施する。

⑤デジタル化の推進

- ・ICTの利活用により業務効率化を図る。

2. 令和5年度歳入歳出予算の概要

(1) 収入及び支出

(単位：千円)

	収 入	支 出	差 引
R5年度予算	(※1) 401,882	348,093	53,789
R4年度予算	393,640	339,383	54,257
R4年度決算見込	395,859	311,268	(※2) 84,591

(※1) 令和5年度予算収入には、令和4年度決算見込差引額 (※2) 84,591千円が含まれます。

令和 5 年度事業計画



茨城県
赤十字血液センター



1. 令和5年度事業計画

(1) センターの現状

- ・施設 : 血液センター（茨城町） 供給出張所（つくば市）
献血ルーム（つくば市・水戸市）
- ・職員数 : 正規職員 115名 常勤嘱託等 58名
- ・車両 : 移動採血車 7台 献血運搬車 15台
その他車両 19台

(2) 主な事業内容

①需給管理機能の向上

- ・ 血液製剤の安定した在庫量を保有し、医療機関の需要に対する安定供給の確保
- ・ 医療機関からの情報収集による高精度な需要及び在庫予測の実現

② 効率的な献血の推進

- ・ つくば献血ルームの移転（増床）による献血者の更なる確保
- ・ コロナ禍における効果的な献血推進活動の展開
- ・ 献血Web会員サービス「ラブラッド」の活用等による予約献血の更なる推進
- ・ 企業・学校・団体への献血協力依頼の強化
- ・ 成分採血における1本当たりの採血量の増量
- ・ 学域における献血セミナーの開催等による若年層献血者の増加

③供給体制の改善の推進

- ・ 定時配送率の向上とWeb発注システムの更なる導入推進
- ・ 採血後3日目までの血小板製剤を安定供給するための体制整備

(3) 採血計画

(単位：本)

項目	令和5年度計画 (A)	令和4年度計画 (B)	令和4年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
計画数（合計）	102,403	103,556	104,327	98.9%
(内訳) 200mL献血	2,359	2,305	2,981	102.3%
400mL献血	72,599	70,972	71,418	102.3%
血漿献血	20,745	23,735	23,539	87.4%
血小板献血	6,700	6,544	6,389	102.4%

(4) 供給計画

(単位：200mL換算)

項目	令和5年度計画 (A)	令和4年度計画 (B)	令和4年度実績見込	対前年計画比 (A) / (B)
計画数（合計）	334,259	328,970	320,219	101.6%
(内訳) 赤血球製剤	134,559	130,950	132,321	102.8%
血漿製剤	33,600	34,170	31,668	98.3%
血小板製剤	166,100	163,850	156,230	101.4%

(5) 原料血漿確保計画

(単位：リットル)

項目	令和5年度計画 (A)	令和4年度計画 (B)	対前年計画比 (A) / (B)
確保目標量	27,966	28,426	98.4%